

平成29年度 自己評価書

学校名	和歌山市立四箇郷学校
校長氏名	上田 仁
作成日	平成30年2月21日

1 教育目標

心身ともにたくましく、豊かな人間性を身につけ、自ら学ぶ子どもを育てる

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点 目標 【P】	<p>○学校だより・ホームページの発行・更新を通して、学校の情報を発信していく。</p> <p>○地域の人たちとの交流を計画的・積極的に進める。</p>	<p>○図書館教育の充実</p> <p>○道徳教育の充実</p> <p>○豊かな体験活動の充実</p>	<p>○学力向上にむけた研究・実践</p> <p>○特別支援教育の充実</p>
取組 の 状況 【D】	<p>○学校だよりやホームページを利用して、保護者の学校への関心を高めるとともに、理解と協力を得られるようにする。</p> <p>○開放月間の行事を意図的に多くして来校者を増やす。</p> <p>○社会福祉協議会の催し(ふれあいお食事会)への児童の参加を計画的に行う。</p> <p>○保護者・地域の方に学校へのボランティア活動を積極的に依頼する。</p>	<p>○中学校区4校の拠点校として、図書館教育・読書活動の充実・推進を図る。</p> <p>○「私たちの道徳」「こころのとびら」を計画的に活用するとともに、道徳科の実施に向けて具体的な計画・行動を進める。</p> <p>○学校や家庭、地域の場において、児童が体験活動を行えるように工夫する。</p> <p>○清掃活動やあいさつ運動を大切にする。</p>	<p>○学力向上を観点にした授業改善を進める。</p> <p>○普通学級に在籍する特別支援教育上で気になる児童に対して、計画的・組織的に支援を行う。</p>
(評価 結果 【C】)	<p>○学校便りとホームページは、校長が発行・更新してきた。特に学習・学力に関することについては、適宜、発信できたと考える。</p> <p>○開放月間の行事は、例年通りの予定のみであったため、平日の来校者が少なく課題が残る。</p> <p>○地域との交流やボランティア活動に関することは、計画的に進められたと考えるが、今後、維持継続するために工夫が必要である。</p>	<p>○担当者やボランティアの取り組み・活動により、本校のみならず他校においても図書室の環境が充実してきている。</p> <p>○道徳の教科書と本校の重点目標と齟齬が生じないように計画を立てている。</p> <p>○PTA活動では、意図的に体験活動を取り入れ多くの児童が参加した。地域の行事や催しには、校長を中心に職員がかかわることで、児童が学校と地域の関係・あり方を意識できるようにしてきた。</p> <p>○清掃活動では、担任外の教職員も指導する担当を決めている。あいさつ運動は児童会が中心となって継続中である。</p>	<p>○外部からの指導を受けるとともに、教員自らの研究・研修をもって授業改善を行っているところである。今後は、長期的な視点と短期的な取り組みを整理し、戦略的に進めていく必要がある。</p> <p>○担任は当該児童の保護者との連携を密にした上で、そして主任を中心に特別支援教育部会や校内就学指導委員会を計画通り開くことができた。</p>
改善 方法 【A】	<p>○開放月間については、学校運営を勘案すると、安易に行事を増やすことは適切ではないと考える。そこで、平日の来校者を増やすために、様々な手立てを講じる予定である。</p> <p>○保護者による図書ボランティア活動については、学校の態勢・人員に応じながら継続できるようにしたい。</p>	<p>○現在の拠点校方式が廃止・変更された場合の体制を構築しなければならない。</p> <p>○教員の勤務における社会的な状況や実態を勘案しながら、今後もPTAや地域への協力を図りたい。</p>	<p>○学力向上を観点・視点にした研究授業を進める。／算数を中心に学年でそろえたノート指導を徹底する。／児童や保護者の学習調査に対する意識を変えていく。／生徒指導・学級経営とリンクした学習指導を行う。／市や県からの配付・配信されたテスト・問題等を確実に実施する。</p> <p>○今後も個に応じた指導・支援を観点に、特別支援教育の充実を図りたい。</p>

3 その他

「地域とともにある学校づくり」を推進するため、来年度よりコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を実施する。